河内長野市の小中一貫教育

河内長野市教育委員会　教育指導課

事業実施当初の課題と原因(H22～)

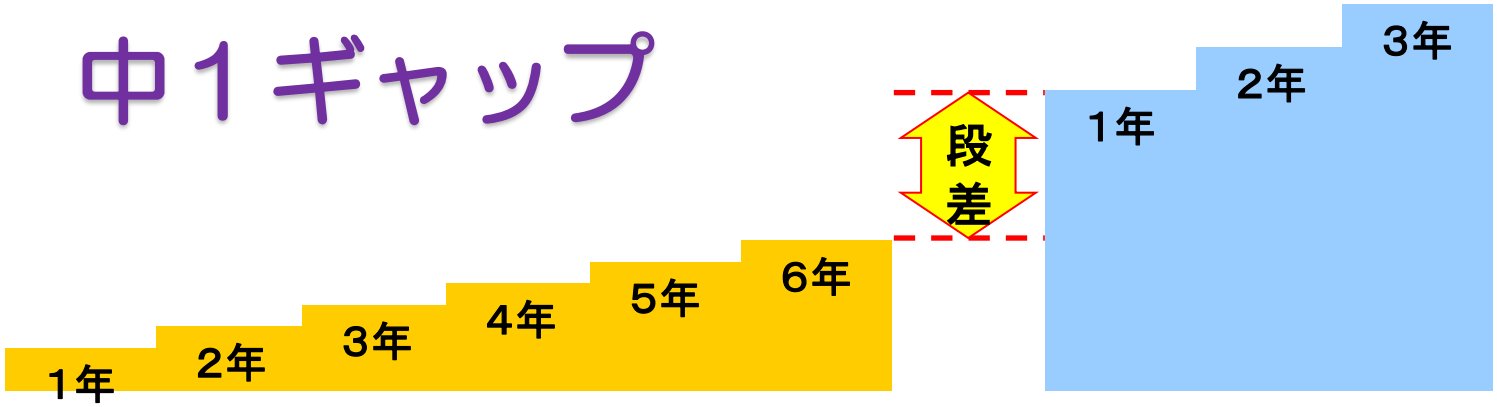
●課題

- 不登校傾向の増加
- 学習意欲の減少
- 自己肯定感やコミュニケーション能力の低下

●原因

- 異年齢との交流不足や人とのつながりを育む場の減少
- 学習スピード、学習スタイルの変化
- 心身の発達度の変化
- 中1ギャップ

中１ギャップ



小学校	→	中学校
学級担任制	→	教科担任制
学級・学年　横の関係	→	部活　縦の関係
単元テスト、意欲関心態度重視	→	定期テスト、知識技能重視
きめ細かい指導、グループ学習	→	板書量、スピード感、教師主導
緩やかな生徒指導	→	厳しい生徒指導
細やかな宿題	→	自学自習
		新教科、進路
		小学校間の文化の違い、新たな人間関係

子どもの生活が激変

事業目的

- 子どもたちを取り巻く社会環境の変化や心身の発達度の変化による教育諸問題の解決を図る。
- 社会総ぐるみで子どもたちを育てる教育コミュニティの縦のつながりとして、小・中学校のそれぞれのよさを活かし、一貫性のあるきめ細かな指導体制を確立する。

義務教育9年間の確かな学力の向上、豊かな心と健やかな体の成長をめざす。

小中一貫教育推進事業の柱

めざす子ども像の共有

一部教科担任制

○小学校高学年から交換授業を含めた一部教科担任制を実施。

・一人ひとりの状況をきめ細かく把握し指導できる学級担任制のよさと、専門性をいかした指導ができる教科担任制に取組む。

小学校英語活動

○小学校1年生からｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ能力の育成をめざした英語活動を実施。

・中学校英語科への接続を見通した小中一貫カリキュラムにより、英語に親しむことをねらいとした英語活動に取組む。

郷土学習「ふるさと学」

○自然、歴史、伝統文化等の視点から地域のよさを学び考える学習を実施。

・変貌する郷土の姿や発展するまちの様子を知り、地域のよさを学び、自分の住む地域に誇りを持つことをねらいとした学習に取組む。

小中乗り入れ授業の実施

小中・小小合同行事の実施

中学校区でつながりのある生徒指導

小中一貫「つながりアップカリキュラム」の作成

本市の学校構成

●全7中学校区

・1小1中・・・2校区
・2小1中・・・4校区
・3小1中・・・1校区

（すべて施設分離型）

※校区によって立地の条件は様々

実施計画等

	H22年度	H23年度	H24年度～H26年度（1stステージ）
推進体制構築過程・計画			
市指定研究校	パイロット校区（美加の台中校区・1小1中）		市全域全面実施（7中学校区）
		モデル校区（西中校区・2小1中）	
市推進体制	小中連携プロジェクト委員設置	小中一貫教育担当者会設置	小中一貫教育推進担当者会（年3回程度）
中学校区 推進体制	・小中連絡会の開催〔管理職等〕 ・小中英語会議（毎月1回開催） ・生徒（生活）指導連絡会（中：毎週1回、小：隔週1回開催） ・支援教育コーディネーター連絡会（各学期1回開催）		・小中一貫教育推進校区会議 ・小中連絡会（担当者） ・小中一貫教育コーディネーター連絡会 ・カリキュラム等作成会議（各担当） ・小中合同研修会
		・小中一貫教育推進校区会議 ・小中生徒指導連絡会（担当者） ・小中英語会議（毎月1回開催） ・小中一貫コーディネーター連絡会 ・合同研修会（小小・小中）	
人的配置	パイロット校への市費非常勤講師の配置		全小中学校への市費非常勤講師の配置 （小中乗り入れ、コーディネーター、生徒指導）
		モデル校への市費非常勤講師の配置	
連続カリキュラム構築過程・計画			
つながりアップ カリキュラム			中学校区ごとにカリキュラム作成（教科等を分担）
英語活動	小5・6カリキュラム検討	小3・4カリキュラム検討	全面実施
	モデル校による小1からのカリキュラム検討・実施		
ふるさと学	テキストの作成	中期カリキュラム検討（中学校区単位）	全面実施
学力向上			カリキュラム作成に伴う中学校での授業研究

Ｈ２７年度からの実施計画

	H24年度～H26年度（1stステージ）	H27年度～H29年度（2ndステージ）
推進体制構築過程・計画		
市指定研究校	市全域全面実施（7中学校区）	
市推進体制	小中一貫教育推進担当者会（年3回程度）	
中学校区 推進体制	・小中一貫教育推進校区会議 ・小中連絡会（担当者） ・小中一貫教育コーディネーター連絡会 ・小中合同研修会等	
人的配置	全小中学校への市費非常勤講師の配置 （小中乗り入れ、コーディネーター、生徒指導）	
連続カリキュラム構築過程・計画		
つながりアップ カリキュラム	中学校区ごとにカリキュラム作成（教科等を分担）	教科書改訂に伴うカリキュラム修正
英語活動	全面実施	小1・2カリキュラム検討・実施
	モデル校による小１からのカリキュラム検討・実施	
ふるさと学	全面実施	
学力向上	カリキュラム作成に伴う中学校での授業研究	言語活動の充実を中心とした授業改善・ 授業実践の積み上げ

小中相互乗り入れ授業の実施

- 市費非常勤講師の配置による乗り入れ授業

平成28年度実績

- 中学校から小学校へ26名
- 小学校から中学校へ16名　　計42名

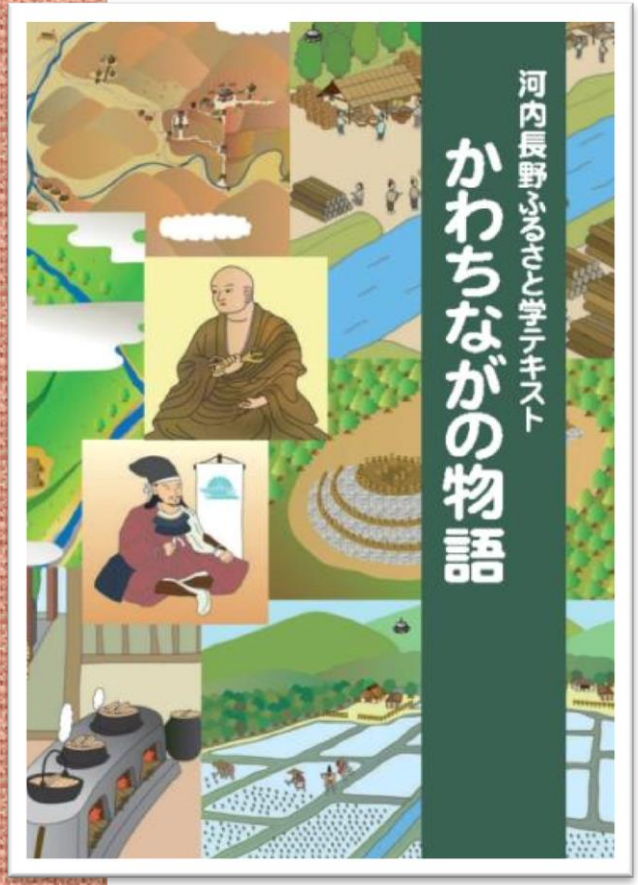
小中一貫連続カリキュラム「つながりアップ・カリキュラム」

- 各教科、英語、ふるさと学、教科外教育、生徒指導に関する9年間を見通したカリキュラムと実践事例・・・9年間を見通した学習方針の共有

ふるさと学

自分の言葉で「ふるさと」を語れる子どもに！

- 中期の3年間（小5・小6・中1）における「ふるさと学」の実施（テキスト：H23～）



英語教育の充実

- 小学校英語活動と中学校英語をつなぐ一貫性のある指導

★H28年度より小学校1年生から実施

小学校英語活動

中学校英語

小中合同行事

- 小学生と中学生による合同行事で、中学校に対する不安の解消や、自己有用感につながる取組みを実施する。

文化発表会
ILE、ENJOY SINGING
いつ歌うの？今でしょ

川上小学校
東中学校
三日市小学校　代表委員会6年

小中全体での研修

コーディネーターなど、
担当レベルでの協議

管理職等、中心メンバー
によるビジョンの共有

- 組織の構築
- 年間計画への確実な位置づけ
- コーディネーター会議の時数確保

小中一貫教育ファーストステージ
Ｈ２４年度～２６年度３ヵ年実践のまとめ

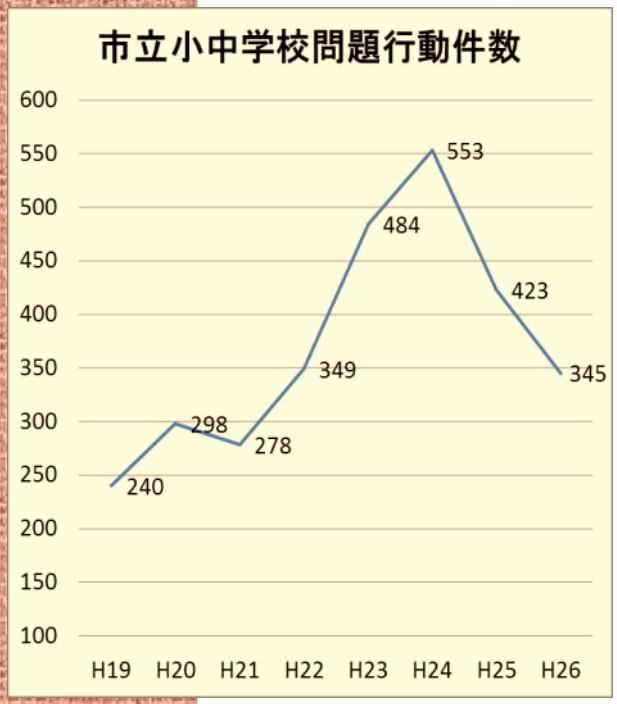
- めざす子ども像の共有化
- 小中乗り入れ授業の実施
- 小中一貫連続カリキュラムの作成
- （前期4年－中期3年－後期2年制、教科・英語・ふるさと学・〇〇教育・生徒指導）
- 小中・小小合同行事の実施（異年齢交流の拡大・年間行事、月中行事への位置付け）
- 中期の3年間（5年・6年・中1）におけるふるさと学の実施

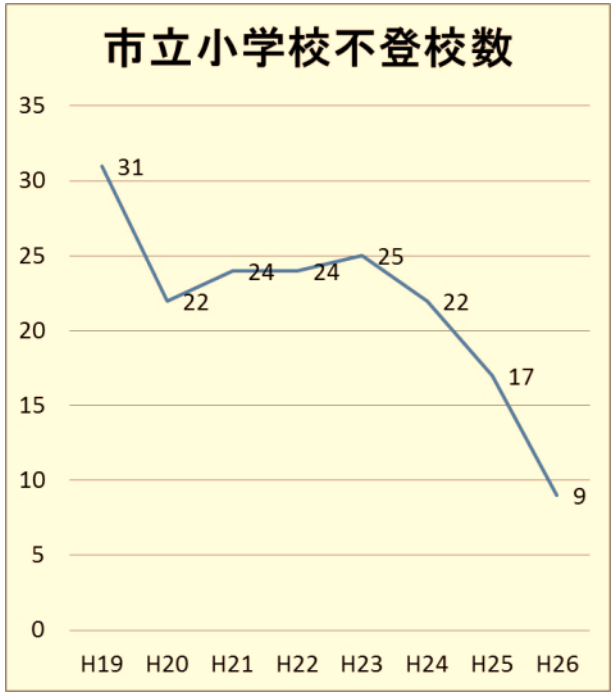
小中一貫教育ファーストステージ
Ｈ２４年度～２６年度３ヵ年実践のまとめ

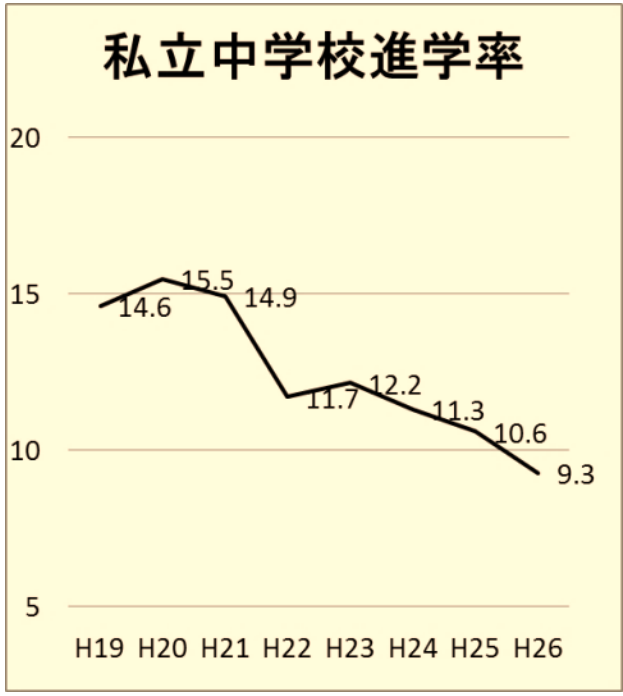
- 小学校英語活動と中学校英語をつなぐ一貫性のある指導
- 小学校の一部教科担任制の実施
- 各校への小中一貫コーディネーター配置による小中一貫連絡会の実施
- 小中で一貫した生徒指導
- 小中合同研修
- 成果報告会の開催
- 市主催コーディネーター連絡会議や研修会、教育フォーラムでの報告会の実施

アンケート結果から

- **自分から進んで学習に取り組むことができた。**
  - H24：76%→H27：81%
- **中学校に入学して勉強や部活動をするのが楽しみだ。**
  - H24：74%→H27：80%







課題

①学力向上への取組み

小中一貫による連続した、言語活動を重視した学力向上策及び授業改善

②児童生徒間・教職員間の交流の拡大

移動の制約（特に子ども）、時間割の調整、いきいき授業の学校間格差

③小中一貫連続カリキュラムの深化

実施、検証、改善へのアプローチ

④めざす子ども像の具体化

中学校区での系統的な学習・生活規律・指導のさらなる共有

課題から見えてきたもの

子どもたちの課題を共有し、中学校区全体で課題解決をめざす仕組みの研究・推進

教育課程や学習・生活規律の系統化をさらに図り、それを継続していく

イベントの積み重ねではなく、児童生徒の9年間を見通した育ちを重視

児童生徒に活動させるのではなく、小中の教員が協働する

学力の向上、より良い人間関係の構築
（生徒指導上の「落ち着き」）

小中一貫 2nd Stage

授業改善と学力向上

・あらゆる教科・領域で言語活動を重視
・思考力、判断力、表現力の育成をめざした、校区での研究授業と研究討議会
・小中間の授業への乗り入れ

小小・小中のさらなる連携
文化の違いを払拭する
小中の教員が協働する

小中一貫コーディネーターの活躍
マイタウンティーチャーの有効活用

カリキュラムの深化

・つながりアップカリキュラムの検証・改訂・実践の積み上げ
・小１からの英語活動・英語科のカリキュラム作成

課題共有と生徒指導

・生徒指導上の課題共有
・中学校区全体で課題解決をめざす仕組み
・学習・生活規律、生徒指導上のルールの共通化
・合同行事精選による効果の高い学校間交流

中学校区で一つのまとまりとして、今後の展開を考えていくことが重要

ある中学校区のセカンドステージビジョン

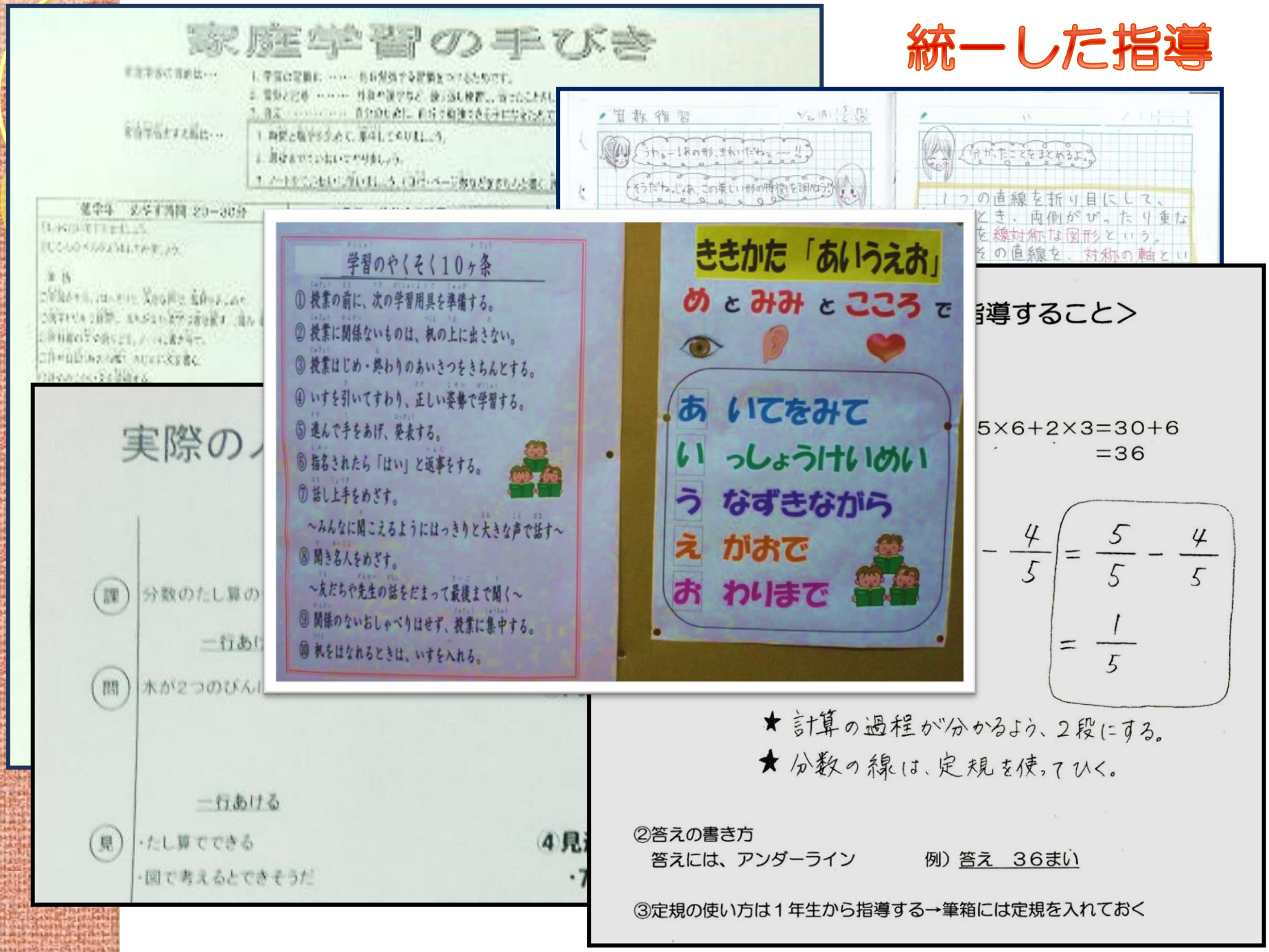
「一つの学校」の意識で、条件整備を推進

〇教育が同じ･･･教育計画、校則、学習規律等の段階的な共通化
（発達段階による連続性）
〇学ぶ環境･雰囲気が同じ･･･環境、生活スタイルの段階的な共通化
奥河内 岩湧の郷 夢学園（命名済）、BGM、掲示物等

子どもの教育課題を解消する観点での活動を推進

確かな学力の向上	生活･生徒指導	仲間作り（集団作り）

統一した指導


家庭学習の手びき
学習のやくそく10ヶ条
① 授業の前に、次の学習用具を準備する。
② 授業に関係ないものは、机の上に出さない。
③ 授業はじめ・終わりのあいさつをきちんとする。
④ いすを引いてすわり、正しい姿勢で学習する。
⑤ 進んで手をあげ、発表する。
⑥ 指名されたら「はい」と返事をする。
⑦ 話し上手をめざす。
～みんなに聞こえるようにはっきりと大きな声で話す～
⑧ 聞き名人をめざす。
～友だちや先生の話をだまって最後まで聞く～
⑨ 関係のないおしゃべりはせず、授業に集中する。
⑩ 机をはなれるときは、いすを入れる。
ききかた「あいうえお」
めとみみとこころで
あいてをみて
いっしょうけいめい
うなずきながら
えがおで
おわりまで
実際の
課 分数のたし算の
一行あけ
問 水が2つのびん
一行あける
見 ・たし算でできる
・図で考えるとできそうだ
導すること>
5×6+2×3=30+6
=36
$-\frac{4}{5}=\frac{5}{5}-\frac{4}{5}$
$=\frac{1}{5}$
★ 計算の過程が分かるよう、2段にする。
★ 分数の線は、定規を使ってひく。
②答えの書き方
答えには、アンダーライン　例）答え　36まい
③定規の使い方は1年生から指導する→筆箱には定規を入れておく

中学校の施設を使った小学生への授業

小中協働の授業研究

小中一貫教育　セカンドステージ

平成27年度

〇教育フォーラム分科会で、7中学校区の発表
　（ファーストステージ3年間の取組みについて）

〇各中学校区での研究授業と
　討議会の実施

〇アンケート等による効果検証